

総合的リスク管理

JA事業改革①

JAの事業利益の低下は年々顕著で、総合的なりスクマネジメントによる事業改革が求められる。リスク管理の重要性と、金融業界などで導入が進むマーケティング手法「イベント・ベースド・マーケティング(EBM)」をJAの営業現場に適用するメリットを、協同経済経営研究所の加島徹専務に解説してもらう。

◇

JA経営でリスクマネジメントの必要性は言うまでもないが、このリスクとは何を意味するのだろうか。リスクはな

れば収益は生まれないのも事実である。

では、経営管理やリスクマネジメントでコントロールしよ

収支変化額で把握

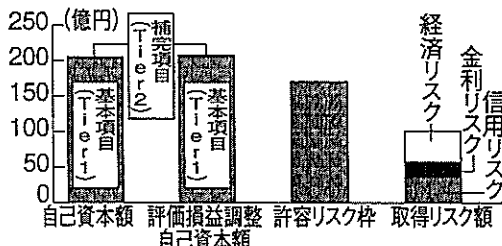
事業の全体を可視化

る事象が起きた時にどれほど将来のキャッシュフロー(現金収支)が変わるか、そのキャッシュフローの変化額をリスクとして捉えている。

信用事業でも経済事業でもJAの事業や経営に関わるリスクを将来キャッシュフローの変化額として捉えようとリスクの実態は捉えやすくなる。信用事業では金融工学を用いてリスクを計測するが、手法は高度であっても行っている

ことは、ある事象が生じた場合のキャッシュフローの変化額を見ているにすぎない。リスクを将来のキャッシュフローの変化額と定義すれば、全ての事業のリスクを数

A農協における許容リスク枠とリスク量の内訳



※実際のJAのデータを基に作成

値で把握することも可能で、

JA経営に関連するリスクの可視化も可能になる。またリスクコントロールとは、事業を通じて得られる将来のキャッシュフローの損失を最小化し、得られるキャッシュフローを最大化することに他ならない。リスク量を小さくし、収益を最大化するなどのリスクコントロールは可視化されていないならば始まらない。

かしま・とおる 筑波大学 卒、農学博士。2007年からJA



JA総合研究所(現JC)

総研)主席研究員、08年から東京農業大学客員研究員、11年から協同経済経営研究所専務。